



実り多き秋！ 校内音楽会終わる

10月31日、校内音楽会が行われました。多くの保護者の皆様にお越しいただきありがとうございました。どの学年どのクラスも練習の成果を発揮して素晴らしい演奏ができました。

6年生は、「やっぱり1番のメインはぼくたちです。ぼくは、歌の方は、力いっぱい大きな声で歌えました。合そうは、ひとつもまちがえずに、きれいな音でできました。ぼくにとって、小学校生活最後の音楽会だったので、ぼくできには、よくできたと思います。でも、少し悲しいです。」といった感想を残しています。

(6年生が丹精こめて育てた菊)



元気に走りぬく！ マラソン大会

11月14日・16日に全校のマラソン大会を行いました。あいにく小雨の降る中でしたが、子どもたちは、それにも負けずがんばって走りました。赤く色づくりんご畑の中を一生懸命走る子どもたちの姿に寒さを忘れて応援してしまいました。各学年好記録も生まれました。



地域家族参観日 ありがとうございました



11月17日(土)は、お忙しい中、大勢の保護者・ご家族・地域の皆様にお越しいただきました。なかよし旬間(11月12日～12月7日)にちなんで、人権教育にかかわる授業1時間とあわせて2時間の授業をご覧いただきましたが、いかがだったでしょうか。

P T A主催の講演会にも多くの方が参加してくださいました。講師の上田養護学校の万年康男先生の「だれにでもあるアンバランス～発達障害という視点からの理解～」と題しての講演に130名ほどの方がお聞きくださいました。わかりやすいお話で、こんな感想も聞かれました。

「今までしらなかったこともあり、とても勉強になりました。学習、集団行動、人間関係などの困難がある場合、周りが困っている以上に本人がどうしていいか困っている話があり、やはり周囲の人がその事に気づき、理解を深めて、助け合っていかなければいけないと思いました。」

学校保健委員会開催



11月14日に「子どもたちの健康と生活習慣について考える」というテーマで学校保健委員会を開催いたしました。P T A役員・学級会長・学校医・学校薬剤師・学校職員が参加してくださいました。講師として長野市保健所の清水由佳さんに来ていただき、「早寝早起き・おいしい朝食は日中の活動から」と題して講話をいただき、生活習慣病予防について、体重管理の大切さ(太り過ぎも痩せ過ぎもよく理由)、イライラスイッチ、落ち着きないスイッチを押さないために動くことの大切さ等をお話いただき、「よく動けば、よく眠れる。よく眠れば朝飯がうまい!! ご飯食べたらず元気に学校行きます」になることを教えてもらいました。よく動くということでペアを組んでのストレッチ等を教えてもらいました。

11 月校長講話より

11 月になってこのところずいぶん寒くなってきました。音楽会、マラソン大会とみなさんの一生懸命な様子を見せてもらって、「豊野西小の子どもたちは、よく頑張っているんだな。」と先生も見に来たお家や地域の方もとても喜んでます。

さて、みなさんは、友だちとは、協力できているでしょうか。仲良くできていますか。ただ今、なかよし旬間ということで、友だちのことについての勉強をしていることと思います。今日はそのことに関係して、みなさんにお話をします。後で、みなさんの感想としてどんなところがよかったか聞いてみたいと思います。

「百羽のツル」 花岡大学 作

冷たい月の光で、こうこうと明るい、夜更けのひろい空でした。そこへ、北の方から、真っ白な羽を、ヒワヒワとならしながら、百羽のツルが、飛んできました。

百羽のツルは、みんな、同じ速さで、白い羽を、ヒワヒワと、動かしていました。首をのぼして、ゆっくりゆっくりと、飛んでいるのは、疲れているからでした。なにせ、北の果ての、さびしいこおりの国から、昼も夜も、休みなしに、飛び続けてきたのです。

「下をごらん、山脈だよ。」と、先頭の大きなツルが、嬉しそうに、言いました。

「もう、あとひといきだ。みんな、がんばれよ。」

百羽のツルは、目を、キロキロと光らせながら、疲れた羽に、力を込めて、しびれるほど冷たい、夜の空気をたたきました。それで、飛び方は、今までよりも、少しだけ、速くなりました。もう、あとが、しれているからです。

するとその時、一番後ろから飛んでいた、小さな子どものツルが、下へ下へと、おち始めました。

子どものツルは、みんなに、内緒にしていたのですが、病気だったのです。ここまでついてくるのも、やっとでした。みんなが、少しばかり速く飛び始めたので、子どものツルは、ついていこうとして、死にもの狂いで、飛びました。それが、いけなかったのです。

あつという間に、羽が、動かなくなってしまう、吸い込まれるように、下へおち始めました。だが、子どものツルは、みんなに、助けを求めようとは、思いませんでした。

もうすぐだと、喜んでる、みんなの喜びを、壊したくなかったからです。黙って、グイグイとおちながら、小さなツルは、やがて、気を失ってしまいました。

子どものツルのおちるのをみつけて、そのすぐ前を飛んでいたツルが、鋭く鳴きました。すると、たちまち、大変なことが起こりました。

前を飛んでいた、九十九羽のツルが、いつと、さっと、下へ下へとおち始めたのです。子どものツルよりも、もっと速く、月の光をつらぬいて飛ぶ、銀色の矢のように速く、おちました。

そして、おちていく子どものツルを、追い抜くと、黒々と続く、大森林のま上あたりで、九十九羽のツルは、さっと羽を組んで、一枚の白い網（あみ）となったのです。すばらしい九十九羽のツルの曲芸は、見事に、網（あみ）の上に、子どものツルを受け止めると、そのまま空へ、舞い上がりました。

気を失った、子どものツルを、長い足でかかえた先頭のツルは、何事もなかったかのように、みんなに、言いました。

「さあ、もとのように並んで、飛んでいこう。もうすぐだ。がんばれよ。」こうこうと明るい、夜更けの空を百羽のツルは、真っ白な羽をそろえて、ヒワヒワと、空の彼方へ、次第に小さく消えていきました。（一部省略）

さて、この話を聞いて、いいなあ すばらしいああと思ったところはどんなところでしょうか。先生がすばらしいと思ったところは、湖に着けば楽しいことが待っている。でも、仲間を置いてきぼりにしないことでした。病気の子どものツルを助けるために、残りの 99 羽が協力して網を作って、みんなで助けたことです。

最後に、疲れていて早く休みたいのに、仲間を助けたのはなぜでしょう。みなさんはどう考えたのでしょうか。

今日はお話を一回きいただけですが、よ〜く読んでいくとすばらしいことばがたくさんありました。人権についての学習していますが、みなさんもお話をじっくり味わってみるとよいですね。